



一致の最終的回復

暗唱 聖句

「しかしわたしたちは、義の宿る新しい天と新しい地とを、神の約束に従って待ち望んでいるのです」

(Ⅱペトロ3:13、新共同訳)

「しかし、わたしたちは、神の約束に従って、義の住む新しい天と新しい地とを待ち望んでいる」(Ⅱペテロ3:13、口語訳)

今週の 聖句

ヨハネ14:1～3、イザヤ11:1～10、黙示録21:1～5、
Iテサロニケ4:13～18、黙示録22:1～5、イザヤ35:4～10

安息日 午後

12/22

今週のテーマ

聖書の最もすばらしい約束の一つは、イエスが再びおいでになるという約束です。この約束がなければ、私たちには何もありません。なぜなら、私たちの希望は、その約束と、その約束が私たちにとって意味することの中心にあるからです。キリストが天の雲に包まれて戻られるとき、この世のもの、人間が作ったもの、つまりはかなくて、時として無意味なすべてのものは、一掃されるでしょう。数々の戦争、飢饉、災害、悲劇があったこの地球は、天での千年期ののちに新たにされ、贖われた者たちが住む場所となり、彼らは最終的に主と、また互いに結び合わされるのです。

キリストの再臨への希望は、新約聖書の大きな主題であり、何世紀にもわたって、クリスチャンはこの約束の成就を待ちわびてきました。私たちセブンスデー・アドベンチストもまた、主の帰還を待望しています。実に、私たちの名前そのものが、その希望を明らかに示しています。

この最後の研究において、私たちはこの約束と、それがクリスチャンの一致にとってどのような意味を持つのかを考えます。キリストにおける私たちの一致は、私たちの欠点や弱さによってしばしば試されます。しかし、私たちはもはや分裂の解決方法を探し求める必要がなくなるでしょう。なぜなら、分裂がなくなるからです。再臨において、私たちは主と一つになり、最終的に再会し、回復された一つの家族となるのです。

ヨハネ 14:1～3は、イエスの再臨に関する最も有名な約束です。初期のクリスチャンたちは、イエスの帰還を「祝福に満ちた希望」（テト 2:13）と考えました。彼らは、聖書のすべての預言と約束が再臨で成就することを期待しました。なぜなら、再臨がクリスチャンの聖なる旅路のまさに目的地だからです。キリストを愛する人はみな、顔と顔を合わせて彼と交われる日を楽しみに待っています。先の聖句の中のイエスの言葉は、彼とだけでなく、救われる者たち同士が分かち合うであろう近しさや親密さをほのめかしています。

クリスチャンがこの約束を信じるのは、聖書がその成就を請け合っているからであり、私たちがこのように確信するのは、「戻って来（る）」（ヨハ 14:3）というイエスの言葉を信じるからです。イエスの初臨が預言されていたように、彼の再臨も、旧約聖書の中でさえ、予告されています。大洪水の前、神は族長のエノクに、栄光に包まれたメシアの到来が罪に終止符を打つであろう、とお告げになりました。エノクは、「見よ、主は数知れない聖なる者たちを引き連れて来られる。それは、すべての人を裁くため、また不信心な生き方をした者たちのすべての不信心な行い、および、不信心な罪人が主に対して口にしたすべての暴言について皆を責めるためである」（ユダ 14、15）と預言しました。

イエスがこの地球に来られる1000年前、ダビデ王も、メシアが神の民を集めるためにおいでになることを預言しています。「わたしたちの神は来られる／黙してはおられない。御前を火が焼き尽くして行き／御もとは嵐が吹き荒れている。神は御自分の民を裁くために上から天に呼びかけ、また、地に呼びかけられる。『わたしの前に集めよ／わたしの慈しみに生きる者を／いけにえを供えてわたしと契約を結んだ者を』」（詩編 50:3～5）。

イエスの再臨は、彼の初臨と密接に結びついています。イエスの誕生と働きを予告した預言は（例えば、創 3:15、ミカ 5:1〔口語訳 5:2〕、イザ 11:1、ダニ 9:25、26）、私たちが再臨に関する約束に希望を寄せ、それらを信頼する土台なのです。キリストは「御自身をいけにえとして献^まげて罪を取り去るために、現れてくださいました。……〔それゆえ〕キリストも、多くの人の罪を負うためにただ一度身を献げられた後、二度目には、罪を負うためではなく、御自分を待望している人たちに、救いをもたらすために現れてくださるのです」（ヘブ 9:26、28）。

◆ 今でも、あなたは再臨の約束からどのように希望と慰めを得ることができますか。

イザヤ 11:1～10 を読んでください。聖書は、地球の創造物語から始まっており（創 1、2 章）、その物語は、私たちの最初の両親であるアダムとエバに託された、美しく、調和の取れた世界を描写しています。それは、神に創造された人類のための完璧な世界、完璧な住まいでした。聖書の最後の 2 章もまた、贖われた人間たちのために完全で調和の取れた世界を神が創造なさることを語っていますが、今回は、正確に言えば、再創造、つまり罪の荒廃からの地球の回復です（黙 21、22 章）。

聖書は多くの箇所、贖われた者たちのこの永遠の住まいは、実在する場所であって、想像上の空想や夢ではない、と明言しています。贖われた者たちは新しい体験、新しい生活を、見て、聞いて、嗅いで、触って、感じることができます。イザヤ 11 章の預言は、新しい時代を創造なさるメシアの到来を予告しているすばらしい箇所です。メシアはすべての暴力を終わらせ、永遠の平和をもたらしてください。この新しい地球を神が統治されることで、宇宙の調和が築かれるのです。

問 1 黙示録 21:1～5 を読んでください。この新しい調和の結果として、何が永遠になくなりますか。

エレン・G・ホワイトは、贖われた者たちを待っているものについて、次のように記しています。「永遠の年月が経過するにつれて、神とキリストについてますます豊かですますます輝かしい啓示がもたらされる。知識が進歩していくように、愛と尊敬と幸福も増していく。人々は神について学べば学ぶほど、ますます神のご品性に感嘆するようになる。イエスが彼らの前に、贖いの富と、サタンとの大争闘における驚くべき功績とをお示しになると、贖われた者たちの心はいっそう熱烈な献身の念に燃え立ち、いよいよ喜びに満たされて黄金の立琴をかき鳴らし、万の幾万倍、千の幾千倍の声が 1 つになり、賛美の一大コーラスとなって盛りあがる」（『希望への光』1930 ページ、『各時代の争闘』下巻 467 ページ）。

◆ 今でも、私たちはどのようにして神の御品性を理解することができますか。この世においても他者と調和しつつ一致して生きることは、神の御品性や性質についてどんなことを明らかにしますか。

教会の初期から、キリストの帰還の約束は、恐らくほかの何よりも、そしてとりわけ試練の中であって、神の忠実な民の心を支えました。彼らの恐ろしい格闘が何であれ、彼らの慰めようのない悲しみや苦痛が何であれ、彼らはキリストの帰還と、再臨に伴うあらゆるすばらしい約束という望みを抱いていたのです。

Iテサロニケ 4:13～18を読んでください。キリストの再臨は、すべての人間に重大な影響を及ぼします。神の国の設立の重要な側面の一つは、選ばれた人々を集めることです。「人の子は、大きなラッパの音を合図にその天使たちを遣わす。天使たちは、天の果てから果てまで、彼によって選ばれた人々を四方から呼び集める」(マタ 24:31)。この呼び集められるときに、義人たちが復活して不死を得ます (Iコリ 15:52、53)。「キリストに結ばれて死んだ人たちが、まず最初に復活し(ます)」(Iテサ 4:16)。これこそ、私たちがみな待ち望んでいた瞬間です。復活した者たちが、彼らの存在と愛を待ちわびていた人々と再会するでしょう。パウロはこの出来事に、次のように歓喜しています。「死よ、お前の勝利はどこにあるのか。死よ、お前のとげはどこにあるのか」(Iコリ 15:55)。

復活の際にあらわれるのは、墓に降って行ったときの病み、年老い、外見が損なわれた体ではなく、新しい、不死の、完全な体、もはや彼らを朽ち衰えさせた罪の特徴のない体です。復活した聖人たちは、キリストの回復の業の完成を体験し、天地創造の際に意図された神の完全なかたちを反映しています (創 1:26、Iコリ 15:46～49)。

イエスの再臨の際に、^{あがな}贖われた死者たちが復活するとき、地上で生きていた義人たちにも、新しい完全な体が与えられます。「この朽ちるべきものが朽ちないものを着、この死ぬべきものが死なないものを必ず着ることになります」(Iコリ 15:53)。それゆえ、贖われたこれら二つのグループの人たち、つまり復活した義人と変えられた義人たちは、「空中で主と出会うために……雲に包まれて引き上げられます。このようにして、わたしたちはいつまでも主と共にいることになります」(Iテサ 4:17)。

◆ この科学の時代であって、クリスチャンの中にさえ、「奇跡」を含むあらゆることに自然な説明を見いだそうとする人たちがいます。復活の約束は、なぜ神の超自然的な行為だけが私たちを救うのかということについて、何を教えてくださいか。

「見よ、わたしは新しい天と新しい地を創造する。初めからのことを思い起こす者はない。それはだれの心にも上ることはない」(イザ 65:17)。イザヤもヨハネも(黙 21:1)、約束された新しい地を幻で見ました。

問2 ヨハネが描いている贖われた者たちのすばらしい都、新しいエルサレムについて考えてください(黙 21:2、9～27)。これらの聖句は、この都に存在するであろう一致と調和について、どのようなことを示唆していますか。

黙示録 22:1～5 を読んでください。罪を犯したことによってアダムが近づけなくなった命の木は(創 3:22～24)、新エルサレムにおいてキリストが近づけるようにしていただきます。命の木に近づけることは勝利を得る者に対する約束の一つです(黙 2:7)。その木が12種類の実を毎月1種類ずつ実らせることは(黙 22:2)、「新月ごと、安息日ごとに／すべての肉なる者はわたしの前に来てひれ伏すと／主(が)言われる」(イザ 66:23) ことの理由を示唆しているのかもしれませんが。「諸国の民の病を治す」という言葉は、人々の間の障壁を取り除き、人類を当初の目的に回復する神の意図も強調しています。あらゆる民族、種族、国民を一つの分裂していない家族に回復し、調和と一致の中に生かし、神に栄光を帰すために結束させるという目的です。

『『諸国の民の病を治す』とは、あらゆる国家的、言語的な障壁や分裂を取り除くことを比喩的に述べているのである。……命の木の葉は、国家間の断絶を解消する。諸民族は、もはや『異邦人』でなく、神の真の民として一つの家族になる(黙 21:24～26 と比較)。ミカが何世紀も前に期待したことが、今や成就しつつある——『彼らは剣を打ち直して鋤とし／槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず／もはや戦うことを学ばない。人はそれぞれ自分のぶどうの木の下／いちじくの木の下に座り／脅かすものは何もない』(ミカ 4:3、4、さらにイザ 2:4 と比較)。命の水の川の岸で、贖われた者たちは『隣り人を招いて、〔命〕の木の下に座すのである』(ゼカ 3:10、口語訳)。命の木の葉のいやす性質は、長年にわたって人類を分裂、分断してきた(人種的、民族的、部族的、言語的)あらゆる傷をいやすだろう」(ランコ・ステファノービック『イエス・キリストの啓示——黙示録注釈』593 ページ、英文)。

イザヤ 35:4～10、65:21～25 を読んでください。イザヤ書には、新しいものが何度か登場します——「新しいこと」（イザ 42:9、43:19、48:6）、「新しい歌」（同 42:10）、「新しい名」（同 62:2）。イザヤ 65 章における新しいものは、物事の新しい秩序です。不服従と反逆のゆえの大地に対する契約ののろいは（レビ 26:14～17、申 28:30 参照）、永遠に解かれます。罪がもはや存在しないからです。その代わりに、多くの祝福、住む家、味わうための食べ物があるでしょう。

そのようなすばらしい場所での生活とは、どのようなものでしょうか。ある人たちは、私たちの体が不死となり、神のかたちに完全に回復されたあと、友人や家族を見分けることができるだろうか、と疑問に思っています。キリストが復活されたあと、弟子たちは彼を見分けることができました。マリアは、キリストの声がわかりましたし（ヨハ 20:11～16）、トマスは、イエスの外見の見分けがつかしました（同 20:27,28）。エマオの2人の弟子は、食卓におけるイエスの癖に気づきました（ルカ 24:30、31、35）。それゆえ、もし私たちの体が復活されたイエスの体と似ているなら、私たちは確実に互いを見分けることができるでしょうし、回復された関係が永遠に続くことを期待できます。私たちは、そこにいる知り合いや愛する者たちとの関係を継続できると考えて差し支えありません。

「そこでは贖われた者たちは、『完全に知られているように、完全に知る』のである。神ご自身が魂にうえつけられた愛と同情とは、そこで最も真実な、最も美しいものとして発揮される。聖者たちとのきよい交わり、聖なる天使たち、及びその衣を小羊の血で洗って白くした各時代の忠実な者たちとの、むつまじい社会生活、『天と地の大家族』を1つに結びつける聖なるきずな——こうしたものが、贖われた者たちの幸福となる」（『希望への光』1930 ページ、『各時代の争闘』下巻 465、466 ページ）。

◆ 「だから、わたしたちは落胆しません。……わたしたちの一時の軽いかんなん 艱難は、比べものにならないほど重みのある永遠の栄光をもたらしてくれます。わたしたちは見えるものではなく、見えないものに目を注ぎます。見えるものは過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです」（Ⅱコリ 4:16～18）。一時的ではないこの世にあって、どうしたら私たちは見えないものや永遠のものを理解し、捉えることができるようになるのでしょうか。

「われわれの主の復活と昇天は、神の聖徒たちが死と墓に勝利する確実な証拠であり、品性の衣を小羊の血によって洗い、白くする者たちに対して天が開かれているという保証でもある。イエスは人類の代表として父のみもとに昇られたが、神は、ご自分のみ姿を反映する人々を導いて、ご自身の栄光を拝させ、共にその栄光にあずからせてくださるのである。

天にはこの世の旅人のために住家があり、義人のために衣があり、栄光の冠と勝利をしめすしゅろの葉がある。神の摂理の内に、われわれを困惑させたすべてのことが、来るべき世界で明らかにされる。それまでは理解できなかったことも、その時には意味を悟ることができ、恵みの奥義が、われわれの前にはっきりと示されるのである。われわれの限りある頭脳が、ただ混乱と、破られた期待だけしか見いだせなかったところに、最も完全で美しい調和を見るであろう。無限の愛が、その時には最もつらいと思われた経験を、備えられたのだということを知るであろう。万事を、われわれの益となるようにしてくださる神のやさしい御配慮を悟る時、われわれは、言葉につくせない、輝きにみちた喜びにあふれるであろう」（『教会への勧告』下巻 462 ページ）。

話し合いのための質問

- ①（全員ではないにしろ）ほかのクリスチャンも文字どおりのイエスの再臨を信じていますが、再臨に対するアドベンチストの希望には、どんな独自性がありますか。
- ② 新しい地での私たちの存在がどのようなものであれ、私たちがみんなと一致して生活することは間違いありません。そうなるためのために、私たちは今、どのような準備ができますか。

まとめ

聖書は、この地球が再創造され、罪の破壊の跡が永遠に消し去られるであろう、と明確に述べています。最終的に人類は当初の目的に回復され、すべての人が仲良く暮らすこととなります。キリストにおける私たちの現在の霊的一致は、今は十分に実現していませんが、その時、実際の現実、永遠の現実となるのです。